

## 卒業を迎えて

准看護学科第 60 期生 飯島 久美子

2年前、私は大きな期待と不安を胸に准看護師を目指し入学しました。今日に至るまでの2年間はあっという間でしたが、意義のあるとても貴重な時間でした。

在学中は新型コロナウイルス感染の影響で学校行事や解剖実習の中止や授業・実習の変更を余儀なくされたことで色々な不安を感じました。

1年次は難しい専門用語が書かれた教科書に圧倒され、次から次に訪れる試験に何度も心が折れそうになりました。難しい専門用語や解剖学、病理学、臨床看護学も繰り返し学習することで理解を深めることができました。そして、次第に知識が増えていくことが喜びとなり学習するモチベーションになっていきました。戴帽式では憧れのナースキャップを戴き、看護への道に進んだ誇りと責任を実感することができました。

2年次の臨地実習では、実際に患者様を受け持つことで、コミュニケーションや個別性を考えた看護展開の難しさに直面しました。患者様にとっての看護を先生方や指導者の方々の指導の下、根拠ある看護を考え看護に必要な観察力や判断力、柔軟性を高めることができました。そして、患者様の笑顔や「ありがとう」の言葉で、准看護師を目指して良かったと改めて感じることができました。

先生方は、不安や悩みにいつでも耳を傾け、真摯に導いて下さいました。厳しいながらも愛情をもって指導して下さり、安心して学ぶことができました。同じ目標に向かって共に悩み、支えあい、高め合ったクラスメイトからは、年齢や性別の壁を越え、お互いの意見を尊重し協力し合うことの大切さを学びました。互いに切磋琢磨して頑張ってきたことは、今では大切な思い出です。

2年間、仕事や家庭との両立が大変だと感じることもありましたが、本当に多くの方々に支えられ、乗り越えることができました。そして、家族の応援と協力があったからこそ、2年間、勉学に専念することができ感謝しています。

コロナ禍での学びだったからこそ、生活や医療の在り方を考え、医療人としての役割と責任を知ることができたのだと思っています。今後は、この感謝の気持ちと初心を忘れずに、熊谷市医師会看護専門学校で学んだ知識・技術・態度を糧に、准看護師として精進していきます。